

令和6年度 学力向上推進計画

伊江幼稚園

1 目標

一人ひとりが豊かな体験や遊びを通して思いを言葉で伝え合う学級づくりをめざして
～五感を刺激する体験遊びをとおして～

2 昨年度の課題

- ☆基本的生活の確立は、家庭と連携しながら継続して取り組む必要がある。
- ☆地域人材を活用し、伊江島特有の郷土色豊かな環境での保育に取り組む。
- ☆引き続き子どもの共通理解と保育環境の見直しができる定期的なミーティングの開催
- ☆屋内にこもりがちな子どもの発達を見とりながら、園庭での運動遊びを充実させる。
- ☆保育者の若年化による方言や遊びなどのスキルアップが必要である。

3 研究仮説について

- ① 周囲の人々に温かく見守られながら体を動かして遊ぶことにより、体験した事や思った事を誰かに話したくなるだろう。
- ② 保育活動や園行事等を通して、色々な人々から認められる事が自信につながり、これを基盤として自分なりの言葉や絵、文字などでの表現ができるようになるだろう。
- ③ 自分が認められる事で、相手の考えも受け入れようとする態度が育ち、互いの良さを認め合えるようになるだろう。

4 研究の内容

1 主題について

(1) 豊かな体験や遊びとは

- ・自然物（土、砂、水、植物、生き物）に触れたり、取り入れたりしながら作って遊ぶ体験。
- ・伊江島特有のシマグチや文化を取り入れた活動やあそび

(2) 言葉で伝え合うとは

- ・自分がして欲しい事や困り感を、感情（泣く・怒り等）で表現するのではなく、自分のなりの言葉で伝える事ができる。
- ・自分の気持ちや考えを伝えるだけでなく、相手の考えも受け入れ、子ども同士で折り合いをつけようと相談し合う姿の出現。

(3) 五感を刺激する体験について

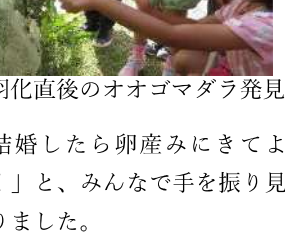
- ・園外散歩や遠足等を通して、見る・聞く・嗅ぐ・味わう・触れる体験を行う。

2 環境構成の工夫

- (1) 小学校との交流学習や保育所との交流、地域の高齢者施設への慰問や保護者等の協力を得ながら進める保育活動の充実を図る。
- (2) 園児が体験した事を、五感と結びつけるように保育者が言葉で表現し、イメージや言葉を豊かにする。

5 具体的な取り組みと環境構成の工夫

(1) 豊かな体験や遊びの場面

主な活動内容と環境構成	諸活動から見られた幼児の姿
自然物を取り入れた遊びや体験  1 色水あそび  バタフライピーに魔法の水を入れるとどうなる？  2 羽化に失敗した蝶へ黙祷  羽化直後のオオゴマダラ発見  「結婚したら卵産みにきてよー！」と、みんなで手を振り見送りました。  3 みんなでダムを作るぞ！ しゃぼん玉作りから洗濯あそびへと発展→	1色水遊びでは、水に入れる花の量で色水の濃淡に気づけた。また、レモン水を入れると色が変わる不思議さや変化を楽しみ、「なんで？」「不思議！」の知的好奇心や探求心が見られた。 2羽化に失敗した姿や蝶園の中で死んでいる成虫を発見した経験から、命の大切さに気づいたのか、「次から羽化した蝶は外へ逃がそう！」と提案し、生息環境を気にする子がいた。 3砂水遊びでは、物の性質や特徴をつかんで遊びを広げていた。（水と砂を混ぜてお菓子を作る、砂を叩いて山やトンネルを作り上げる。） 3高い所から低い所に水が流れる法則に気づき、自分達で協力して樋をつなぐ。 4割れないしゃぼん玉作りで、材料のシロップを多く入れたり、シロップを蜂蜜に変えたり、また、洗剤を溶かすため、水からお湯に変えたりして試行錯誤をくり返す姿が見られた。  4 混ぜる量を減らしたり、増やしたりして試行錯誤し、完成！ 
島の行事やシマグチを取り入れた活動   老人会よりお守り贈呈：お礼に、シマグチかぞえうたをプレゼントしたよ。  	○地域に住んでいる高齢者に親しみをもち、自らあいさつや自己紹介をして関わっていた。 ○高齢者をはじめ、地域の人々（保育所でお世話になった先生方）など、自分の生活に関係のある人たちと交流し、人を喜ばせたい、地域の役に立ちたいなどの気持ちが芽生え、地域活動に自信をもって参加できた。（村祭りのちびっこ相撲大会へ参加・チューパンジャ祭りの出演・高齢者施設への慰問） ○方言活動を取り入れた学習発表会では、聞き慣れた童謡を方言に変換して歌う事で、名称や言葉を覚え、生活の中で方言を使うなど、シマグチの響きを楽しむが見られた。 ○ウニムチ行事を通して、島の食文化や昔の人の知恵な

ウニムチ作り



「シンメー鍋を使うと、一度にたくさん蒸す事ができて、早く仕上がるんだよ。」や「丸めてから葉にのせていこうね。」など、手際よく作業するコツも教わりました。

相撲教室



相撲経験のある地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、四股や対戦の流れを教えてもらいました。

どにふれる事ができた。

○保育活動に協力してもらう、親や祖父母などの気持ちに気づき、自分達で言葉を考え、感謝の気持ちを伝える事ができた。

元保育所所長による島ふとうばの読み聞かせ



島のわらべ歌や民話を紹介していただきました。読み聞かせ後は、踊りも教えてもらい、みんなで楽しく踊りました。お世話になった先生方に園児の育ちも見てもらえ、地域で大切に育てられている実感がもてる機会です。



村のイベント『チューパンジャ祭り』の舞台発表で、動物ヨガやシマグチ版「おべんとうのうた」を披露しました。園児がシマグチを話す事を多くの村民に喜ばれ、「イントネーションも上手だったよ。」と、声をかけてもらいました。

(2) 言葉で伝え合う場面

主な活動と環境構成

①



②



③



④



⑤



⑥



諸活動からみられた幼児の姿

- ① 自分の考えを述べる場…傾聴してもらえる安心感を得ながら、自分の考えを、相手に伝わるように、話すようになる。
- ② 話し合いの場…相手の考えも聞き入れ、自分とは違う考えにふれながら、どう折り合いをつけるか調整する力がついてくる。
- ③ 感想発表の場…全体の前で自分の気持ちを発表する事で自信をもち、次の活動への意欲がもてる。
- ④ 家族の紹介の場…家族の愛情に気づき、家族を大切にしたい気持ちや感謝の気持ちが育った。
- ⑤ 遊びの中で考えを出し合う場…お互いがもつイメージや目的を共有し、意見をぶつけ合い、折り合いをつけながら目的実現に向かうようになる。
- ⑥ 活動や遊びを振り返り、よりよくしようと考えを巡らせ、気づいた事を発言したり、自分の考えを受け入れられたりしながら、充実感を味わえた。

(3) 五感を刺激する活動や遊び

主な活動と環境構成	諸活動からみられた幼児の姿
⑦  ⑧  ⑨  ⑩  (左) その場で見つけた自然物でイメージした事をすぐ表現できるように必要な用具を準備して戸外へ出ます。 (右) 合羽を常備し、いつでも雨の日散歩に出かけられる用意をします。水たまりやカッパを叩く雨音は、最高の環境です。	⑦ 1年生とのお菓子作り…材料を砕いたり溶かしたり、混ぜたりしたものを固めて冷やし、試食したお菓子作り。工程ごとに変化する材料を、嗅いで、見て、触って、味見の体験ができました。 ⑧ フロアリズム・アクアリズム…発達に応じた遊びがくり広げられ、のびのびと全身を動かすうちに、多様な動きが経験できます。 ⑨ はじめましてのぎんなん…教師が旅先で拾ってきたぎんなんを観察。「くさい!」「やだ!」など、初めて嗅ぐ刺激臭に思わず鼻をつまんでいます。沖縄と本州は、季節だけじゃなく、植物にも違いがある事を知りました。 ⑩ 自然物制作・雨の日散歩…枠にとらわれない発想で、のびのびと自己表現・自己発揮ができ、絵画や制作活動で豊かな感性が出現する。 ⑪ 園外保育・遠足…自然などの身近な事象への興味や関心が高くなり、季節により自然や人の生活に変化があることに気づけた。 ⑪    戸外・園外での環境は、自然のさまざまな恵みに感謝しながら巧みに遊びに取り入れて、遊びを楽しむ事ができます。植物や動物はもちろん、目に見えない風も肌で感じながら動きをつかみます。

6 ま と め ～幼児教育において育みたい資質・能力の3つの柱を視点に～

<成 果>

- 物の性質や特性をつかみ、気づいた事(砂と水を混ぜると型どりやすくなる等)を生かして、遊びを広げる事ができた。(例:砂場でのままごと遊びからトンネル・ダム作りへ発展 等)
- 試行錯誤をくり返し、最後まで取り組む事で、成功につながると分かった。(例:割れないしゃぼん玉作り等)
- やりたい事に向かって考えを出し合い、自分の気持ちを発表したり、調整したり、互いの考えをまとめたりしながら、目的を実現する事ができた。(誕生会や1年生との合同授業・学習発表会の役割等)
- 一人ひとりが自己発揮しながら、園内外の人と多様な関わりがもてるようになった。また、人を喜ばせたい・誰かの役に立ちたいと、地域行事に参加し自己の力を十分に発揮する事ができた。

(保育園児との交流・相撲大会参加・祭りの舞台発表・慰問交流等)

<課 題>

- 育てた野菜を収穫したり試食したり、遊びに取り入れたりする機会が少なかった。(栽培活動の充実)
- フロアリズムやアクアリズムに頼らず、園内でできる運動遊びの工夫を図る。(水遊びや運動遊び)
- 家庭と連携した基本的生活リズムの確立(登園時間の厳守)と保護者との信頼関係の構築